

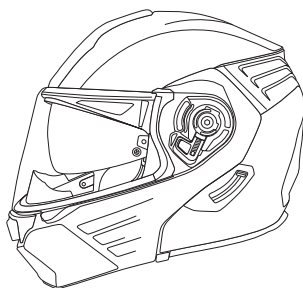


Kazami

カザミ

KAZAMI系 取扱説明書

保存用



ご使用になる前に

この取扱説明書は必ずヘルメットご使用前にお読みください。またお読みの後は、保管してくださいますようお願いいたします。

メットインスペースへの収納について
当製品は、車種により「メットインスペース」への
収納ができない場合があります。
あしからずご了承ください。

KAZAMI 取扱説明書・インデックス……P-1

おもな部位の名称……P-2

I. 安全・快適にご使用いただくために

ご使用になる前に……P-3

II. 各機能のご使用方法について

1 あごひもの取扱方法……P-5

2 チンカバーの開閉方法……P-6

3 インナーサンシェードの開閉方法……P-7

4 ベンチレーションの開閉方法……P-9

5 別売・オプション **Pinlock® Original Insert Lens**の使用法……P-11
(ピンロック® オリジナルインサートレンズ)

III. 各機能のメンテナンスについて

— 外装系 —

6 シールドの脱着方法……P-14

7 インナーサンシェードの脱着方法……P-16

8 シールドラチェットの脱着方法……P-18

9 チンカバーの脱着方法……P-20

— 内装系 —

10 あごひもカバーの脱着方法……P-21

11 チーク(ほほ)パッドの脱着方法……P-22

12 インナーパッドの脱着方法……P-24

参考 **インナーパッド、チークパッド、あごひもカバーの互換性について**……P-25

重要 **内装パッドの洗濯についてのご注意**……P-25

13 ウィンドシャッターの脱着方法……P-26

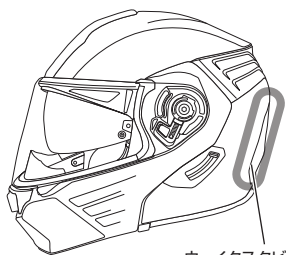
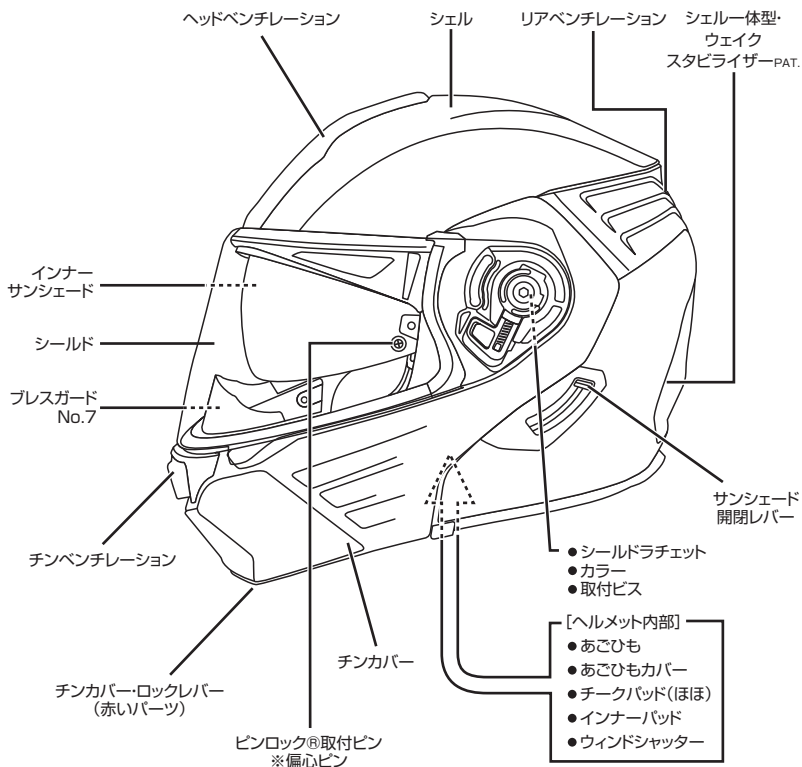
14 ブレスガードNo.7の脱着方法……P-27

IV. お問い合わせ・補修/修理

商品に関するお問い合わせと修理のご依頼方法……P-28

KAZAMIシリーズ 補修パーツリストと修理対応表……P-29

Kazami おもな部位の名称



ウェイクスタビライザーPAT.

〔シェル一体型・ウェイクスタビライザーPAT.〕

ウェイクスタビライザーPAT.は、様々な角度から行われた風洞実験の分析結果から生み出された、Kabutoの新システム。

走行中に発生する帽体付近の空気の流れをコントロールし、負荷を軽減します。

ご使用になる前に

このたび、当製品をお買い上げ頂き、ありがとうございます。

この取扱説明書はお買い上げいただいたヘルメットの正しい取扱い方法や各機能、脱着などについて説明しております。ご使用になる前に必ず最後までお読みください。

またお読みの後は、大切に保管してくださいませようお願いいたします。

ヘルメットは、いかなる事故にも、絶対という訳ではなく、万一の際に危険の度合いを減らす装備の一つで、安全の一要素にすぎないということをよくご理解のうえご使用ください。

安全快適なモーターサイクルライフを楽しむためにも、本書に記載の注意事項をよくご理解いただきますようお願いいたします。

❗ 頭に合ったサイズのヘルメットを、お選びください。

大きすぎるヘルメットは、走行中ぐらつき危険です。また小さすぎるヘルメットは、頭を締めつけ痛くなる可能性もあるので、頭によく合ったヘルメットをお選びください。

❗ あごひもは必ずしっかり締めてください。

あごひもを締めなかったり、締め方がゆるいと、万一転倒した時などに脱げてしまい、頭を守る事ができず非常に危険です。

❗ 大きな衝撃を受けたヘルメットは外観上に損傷がなくても、ご使用にならないでください。

ヘルメットはシェル及び衝撃吸収ライナーが濡れることで、衝撃エネルギーを吸収します。大きな衝撃を受けたヘルメットは、既にライナーが濡れている場合が多く、そのまま使用すると、再度衝撃エネルギーを吸収できず非常に危険です。外観にキズ等がなくても、使用しないでください。

❗ ヘルメットの改造は絶対にしないでください。

ヘルメットに穴を開けたり、内部の衝撃吸収材を削ったり、あごひもなどは絶対に改造したりしないでください。ヘルメット本来の性能が発揮できなくなり非常に危険です。また部品を取り外したまま使用しないでください。

❗ ヘルメットのお手入れは薄めた中性洗剤でふき取るようにしてください。

ガソリン、シンナー、ベンジン、熱湯(50℃以上)や、塩水等は絶対に使用しないでください。ヘルメットの材質が侵され、ヘルメットの性能が低下するおそれがあります。

❗ ヘルメットのペイントはもちろん溶剤の塗布は絶対にしないでください。

ヘルメットに塗料、接着剤、ガソリンなどの溶剤を塗布しますと、それらの影響により材質が侵され衝撃吸収力が低下する場合がありますので絶対におやめください。

❗ ヘルメットは大切に取扱ってください。

ヘルメットは丈夫だからといって、床等に放り投げたり、上に座ったりしないでください。その度に衝撃を吸収するため、衝撃吸収力が低下します。万が一の為に大切に取扱ってください。また、乗車時での頭を保護する以外の目的には使用しないでください。

！ ヘルメットの保管について

ヘルメットは直射日光の当たる車の中や、暖房機のそばなど、高温（50℃以上）の場所に長時間放置しないでください。（ヘルメットに使われている材質が侵され、性能が低下します。）
また、落下しやすい、オートバイの上や高所などでの保管はしないでください。

！ シールドのお手入れについて

シールドの汚れを取るときには、柔らかい布を使い、薄めた中性洗剤で汚れをふき取り、最後に清水ですすいだ布で拭きあげてください。
ガソリン、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

！ フルフェイスヘルメット使用上のご注意

フルフェイスをご使用の場合、走行中のヘルメット内はほぼ一定の温度ですが、高速度で移動しているため周辺的环境は常に変化しています。そのため、突然の雨やトンネルに入った直後、峠道など高低差がある場合は、ヘルメット内の温度と周辺との気温差が生じるため、シールドが急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時は、あらかじめシールド開度の調整や適切なスピードにするなど注意をするをお願いします。
なお、シールドの開閉操作及びベンチレーションシャッター操作は、必ず停止した状態で行ってください。走行中の操作は危険です。

！ 乗車用ヘルメットの有効期間は、「購入後3年間」です。

ヘルメットは様々な状況下において使用されるために、見た目以上に劣化が進んでいることがあります。このため、SGマークにはヘルメットの耐久性を考慮して、「購入後3年間」と有効期限を定めて、ヘルメットに表示しております。有効期限を過ぎたヘルメットは、事故の際に十分な保護性能を発揮できない場合が多く、正常に使って異常が認められなくても、ご購入後3年以内に交換してください。



PSC・SGマークについて

「PSCマーク」

「P:Product(製品)」、「S:Safety(安全)」、「C:Consumer」の頭文字を略号としてマークで表しています。これは消費生活用製品安全法に基づき製造された製品に表示されるマークで、消費者に対して生命の危険や身体に特に危害を及ぼすおそれが多いと認められる製品を国が「特定製品」として指定していることを意味します。日本国内で販売されるヘルメットは、このマークが表示されていないと、販売することはできません。

「SGマーク」

SGマークは、製品安全協会が定めたSG基準に適合している製品に表示されるマークです。
またSGマークは、万一ヘルメットに欠陥があり、製品安全協会の定めるSG基準に適合していないために着用者が損害を被った場合に、その損害を賠償するものです。なおこの制度はプロオートバイレースやサーカスなどの特殊な用途に用いている際の負傷や、SG基準が定めるヘルメットの性能を超える強い衝撃を受けたための負傷などは賠償の対象になりません。

(SGマークに関するお問い合わせ先) **製品安全協会 ☎(03)5808-3300(代)**

〒110-0012 東京都台東区竜泉2-20-2 ミサワホームズ 三ノ輪 2F

Ⅱ. 各機能のご使用方法について

1 あごひもの取扱方法

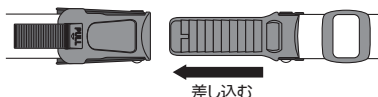
●マイクロラチェットバックルの脱着

このヘルメットには、あごひもの脱着が簡単にできる「マイクロラチェットバックル」を採用しております。

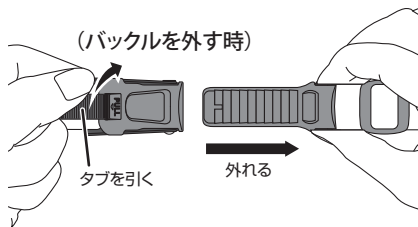
⚠ 警告

バックルを装着しないでの走行や装着が不完全ですと、万一転倒した際にヘルメットが脱げてしまうおそれがあります。オートバイに乗る前に、確実に締まっているかを確認してから、走行してください。

(バックルを装着する時)



(バックルを外す時)



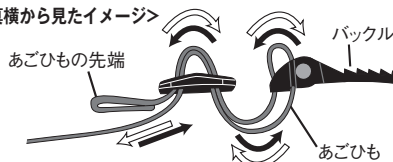
●あごひもの長さ調整

<適正なあごひもの長さ>

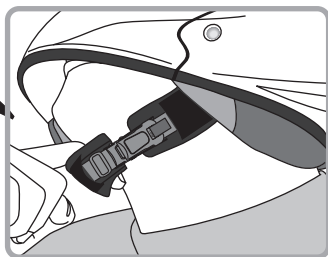
ヘルメットをかぶり、バックルをしっかりと締めます。

その際、のど元付近のあごひもと、のどの間に、人指し指一本入る程度が適正なあごひもの長さと言えます。このときに、あごひもの長さが合っていない場合は、あごひもの長さ調整を行ってください。

<真横から見たイメージ>



→ 短くするとき ⇨ 長くするとき



⚠ 警告

バックルをしっかりと締めても、あごひもの長さが適正でないと、万一転倒した際にヘルメットが脱げたり、首元が必要以上に締まったりするおそれがあります。

あごひもはヘルメットの重要な部分ですので、乗車前には必ず慎重かつ正確に調整しましょう。

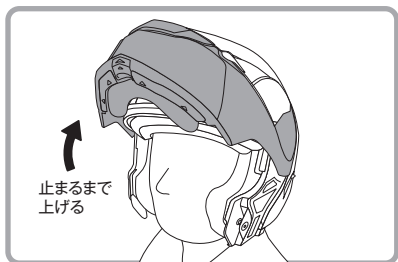
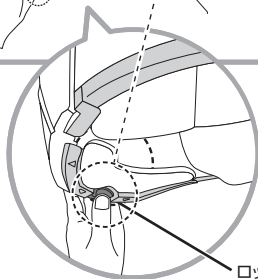
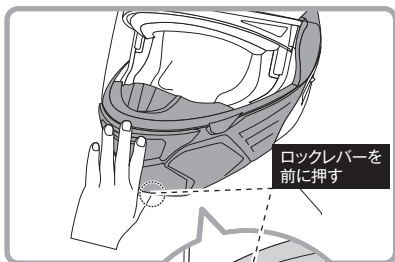
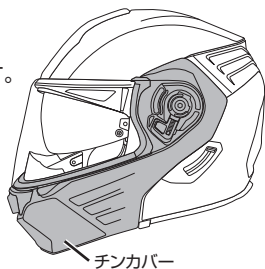
2 チンカバーの開閉方法

この製品は、チンカバーを開閉できるシステムを採用しています。

ーチンカバーの開けかたー

図の部分にあるロックレバー(赤いパーツ)を押しながらチンカバーを「止まるまで」上げます。

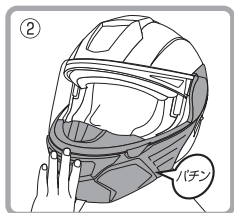
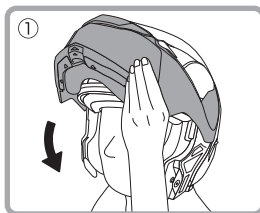
※チンカバーは、「全開」および「全閉」の状態以外では固定されませんのでご注意ください。



ーチンカバーの閉めかたー

チンカバーの図の部分を持ち、下方向へ「パチン」と音かするまで下げます。

※必ずロックが掛かるまでしっかりと閉めください。



次ページ(P-7)に続きます



Ⅱ. 各機能のご使用方法について

❗ご 注 意

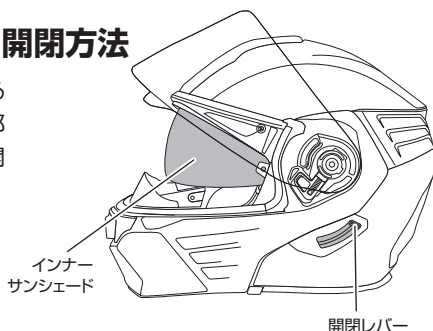
- チンカバーを開く際は、やさしく取扱ってください。乱暴に開閉を行うと、取付部分やラチェットシステムが破損する場合があります。
- 全閉時は容易に開かないよう「ロック機構」を採用しています。チンカバーを閉める際、このロック部分に指を挟まないようくれぐれもご注意ください。

⚠警 告

- 走行中の開閉操作は危険ですので絶対に行わないでください。
開閉操作は必ず運転前もしくは停止してから行ってください。
- チンカバーは全開・全閉状態以外では固定されません。それ以外での角度で使用すると、チンカバーが視界を妨げる原因となり大変危険ですので、必ず全閉状態でご使用ください。
- チンカバーを開けたまま走行しないでください。開けたまま走行すると、チンカバーに過大な風圧がかかり、首を痛める場合や、重大な事故につながるおそれがあります。
- チンカバーを取り付けている「カラービス」は定期的に増締めを行ってください。
走行時の振動などにより緩む場合があります。そのまま使用を続けると走行中に脱落し、重大な事故につながるおそれがあります。

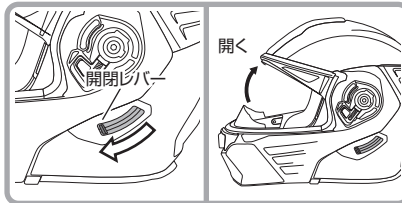
3 インナーサンシェードの開閉方法

このヘルメットには日中の眩しさを抑える「インナーサンシェード」をヘルメット内部に装備しており、ご使用環境に合わせて開閉が可能です。



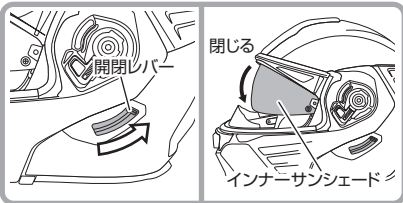
【インナーサンシェードの開閉】

開けるとき



開閉レバーを下へスライドさせると
インナーサンシェードが開きます。

閉じるとき

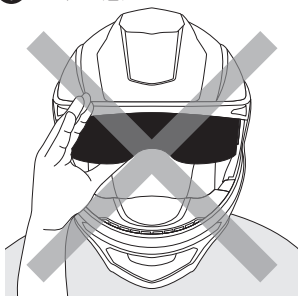


開閉レバーを上へスライドさせると
インナーサンシェードが閉じます。

⚠ 警告: 開閉レバーについて

インナーサンシェードを開ける際は、開閉レバーを前方へ完全にスライドさせてください。
開閉レバーが途中で止まった状態のままご使用になると、振動などでインナーバイザーが下りてくるおそれがあります。

❗ ご注意



インナーサンシェードを直接持って
開閉すると内部パーツが破損するお
それがありますので、必ず開閉レ
バーで操作してください。

⚠ 警告

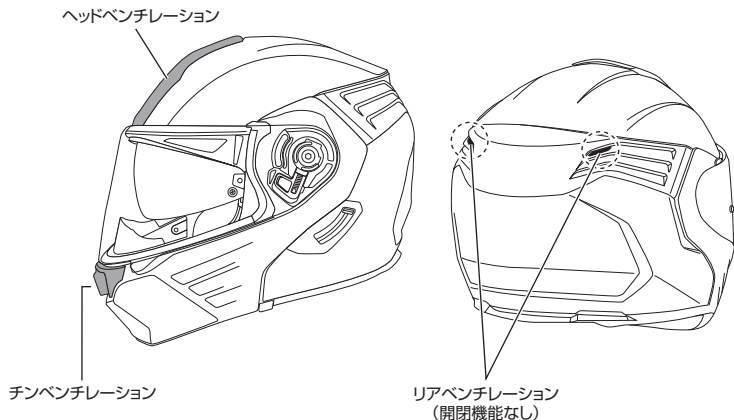
- 夜間やトンネルなどで走行する場合は必ずインナーサンシェードを開けてください。
- 突然の降雨やトンネルに入った直後、峠道などで高低差がある場所など、気温変化が生じた場合、急激にインナーサンシェードが曇る場合があります。このような状況が予想されるときはあらかじめインナーサンシェードを開けた状態にしてください。

❗ 開閉レバーが破損した場合

インナーサンシェードの開閉レバーが破損した場合は、メーカー修理となります。(28～30ページ参照)
なお修理受付の際、ヘルメットの安全性能が保持出来ないと判断した場合は、修理が出来ない事があります。

Ⅱ. 各機能のご使用方法について

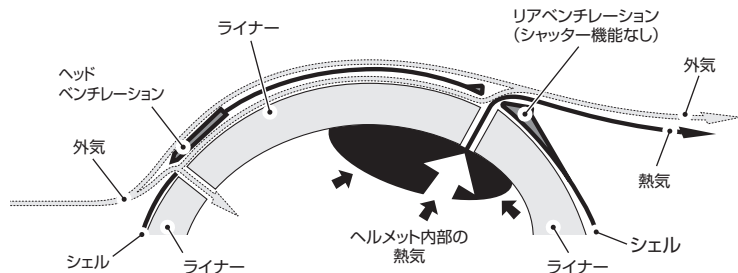
4 ベンチレーションの開閉方法



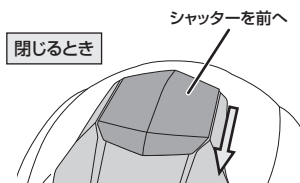
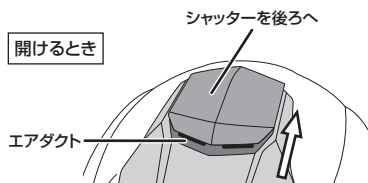
【ベンチレーションシステム】

オートバイ走行時における前方からの風圧を利用して効率よく外気を導入し、ヘルメット内部の熱気を排出させるシステム。またこのベンチレーションには、風の導入を任意で操作する「シャッター機能」が装備されており、寒い冬や雨天時などの冷気や水滴の侵入をシャットアウトします。(リアベンチレーションには開閉機能がありません。)

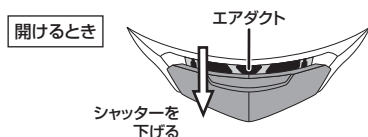
<KAZAMI ベンチレーションの構造>



【ヘッドベンチレーションの開閉操作】



【チンベンチレーションの開閉操作】



❗ご注意

各ベンチレーションは、強い力を与えると部品が破損する場合がありますので、取扱いにはご注意ください。

⚠警告

- 走行中のシャッター操作は危険ですので絶対におやめください。
シャッターを操作するときは、走行前あるいはオートバイを安全な場所に必ず停車させてから操作してください。
- 各ベンチレーションのエアダクト(エア吸排出穴)は、転倒や事故の際の大きな衝撃を考慮し、最良の大きさ・数で設計しております。むやみに穴を広げたり穴の数を増やしたりすると、ヘルメットの性能を低下させる原因となり、大変危険ですので絶対におやめください。

❗ベンチレーションが破損した場合

各ベンチレーションが破損した場合は、オプション販売またはメーカー修理となります。(28~30ページ参照) なお修理受付の際、ヘルメットの安全性能が保持出来ないと判断した場合は、修理が出来ない事があります。

Ⅱ. 各機能のご使用方法について

5 別売・オプション Pinlock® Original Insert Lensの使用方法

Pinlock® Original Insert Lensは、Pinlock® fog-free system社の登録商標です。

当製品には、優れた曇りどめ効果を発揮する「Pinlock® Original Insert Lens(別売)」を取り付けることができる「ピンロックピン(偏心ピン)」をシールドに標準装備しています「Pinlock® Original Insert Lens」は、当製品をお買い上げになった販売店にて別途お買い求めください。

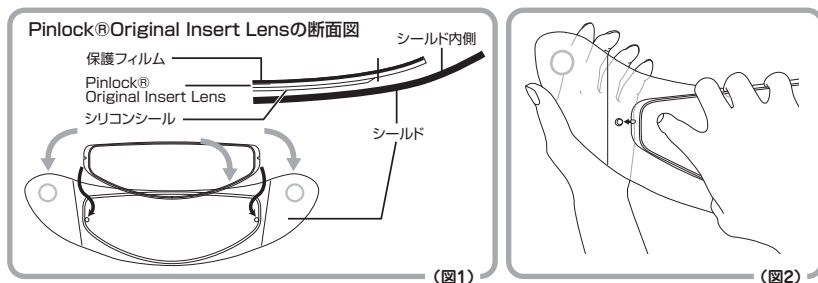
Pinlock® Original Insert Lens (ピンロック®オリジナルインサートレンズ)	CM-2-P用	1枚入り: ¥3,000(+消費税)
---	----------------	------------------------------

【Pinlock® Original Insert Lensについて】

Pinlock® Original Insert Lensは、冬期や雨天時などのヘルメット内部の温度変化によるシールドの曇りを抑える曇り止めシートです。シールドとPinlock® Original Insert Lensの間に適度なすき間を設けることにより、外気温とヘルメット内部の温度差を平衡に保ち、曇りを抑えクリアな視界をキープします。

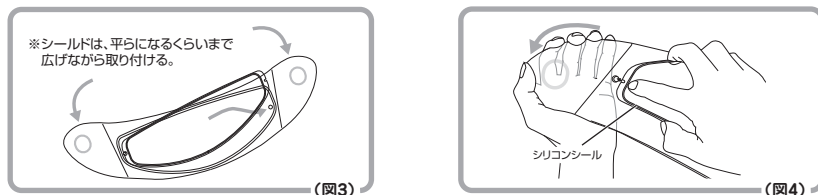
Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける

—Pinlock® Original Insert Lensの取り付けかた—



- ① Pinlock® Original Insert Lensの保護フィルムを剥がさずに、シリコンシールがある面をシールド内側に密着するように取り付けます。

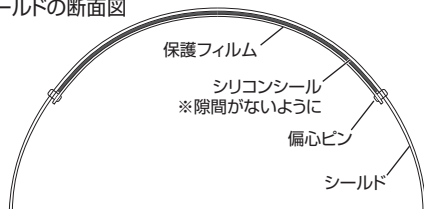
このとき、Pinlock® Original Insert Lensの取り付け部を片側よりシールド内側にある偏心ピンへ差し込みます。(図1、図2)



- ② 片側の偏心ピンにPinlock® Original Insert Lensを差し込んだまま、シールドを平らになるくらいまで広げ、反対側の取り付け部も差し込み、シールドをゆっくり元に戻します。このとき、Pinlock® Original Insert Lensをシールドの溝の内側に収まるよう正しく取り付けます。(図3、図4、図5)

(③につづく)

シールドの断面図



シールドの溝の内側に収まるよう
正しく取り付ける



(図5)

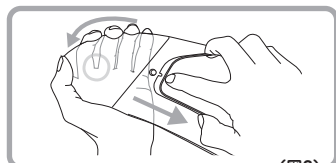
③シールドをヘルメットに取り付けて、Pinlock® Original Insert Lensのシリコンシールが全てに渡ってシールドに密着しているかを確認します。このとき、隙間が見られる場合は、「Pinlock® Original Insert Lens・取り付け後の調整」を参照のうえ、調整してください。

※ Pinlock® Original Insert Lensの密着度確認は、必ずヘルメットにシールドを装着した状態で行ってください。ヘルメットに装着していない状態では、Pinlock® Original Insert Lensの応力により、シールドが装着時よりも広がっている場合がありますので、ご注意ください。

④最後にPinlock® Original Insert Lensの保護フィルムを剥がして取り付けが完了です。

—Pinlock® Original Insert Lensの取り外しかた—

- ①シールドをヘルメットより取り外します。
- ②Pinlock® Original Insert Lensを取り付けたときの要領で、シールドを平らになるまで広げながら、偏心ピンからPinlock® Original Insert Lensを取り外します。(図6)

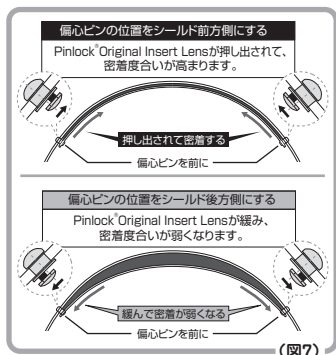


(図6)

—取り付け後の調整—

Pinlock® Original Insert Lensとシールドに隙間が見られる場合は、調整を行ってください。

- ①ヘルメットからシールドを取り外し、Pinlock® Original Insert Lensを取り外します。
- ②偏心ピンを工具などを用いて(図7)のように、回して調整します。
- ③再度Pinlock® Original Insert Lensをシールドに取り付け、ヘルメットに取り付けてから密着度合いを再確認します。調整が必要な場合は、再度上記の作業を行います。



(図7)

※「Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける」に関する次ページの、「**ご注意**」、「**Pinlock® Original Insert Lens・取り扱い上のご注意**」についても必ずよくお読みください。

Ⅱ. 各機能のご使用方法について

❗ご注意

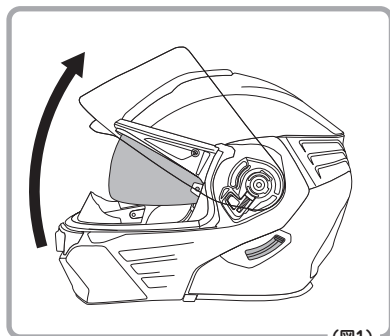
- Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける際は、シールドを十分平らにしてから取り付けてください。平らにしないまま装着しようとすると、偏心ピンを破損することがあります。
- Pinlock® Original Insert Lensを取り付ける際は、シールド内側の汚れをきれいに取除き、Pinlock® Original Insert Lensのシリコンシール側の曇り止め部分には手を触れないよう十分に注意しながら取り付けてください。
- お手入れの際は、ベンジン・シンナー・ガソリン・ガラスクリーナー、その他の溶剤は絶対に使用しないでください。Pinlock® Original Insert Lensの材質を冒すおそれがあります。
- 乾燥の際、50℃以上になる場所や暖房機のそばなどに置いたり、ドライヤーや直火の使用などは絶対におやめください。
熱によりPinlock® Original Insert Lensの材質を冒すおそれがあります。

❗Pinlock® Original Insert Lens・取り扱い上のご注意

- Pinlock® Original Insert Lensは、Pinlock® Original Insert Lensに対応した専用シールドのみで使用になれますが、それ以外のシールドにはご使用いただけません。
- シールドとPinlock® Original Insert Lensの間が曇ったり、雨水が浸入する場合は、Pinlock® Original Insert Lensを取り外し、シールドとPinlock® Original Insert Lensの双方を十分に乾燥させてから、再度Pinlock® Original Insert Lensを取り付けてください。
- Pinlock® Original Insert Lensは、定期的に取り外してメンテナンスを行ってください。Pinlock® Original Insert Lensを長期間取り付けたままにすると、シリコンシールがシールドに固着する場合があります。
- Pinlock® Original Insert Lensをご使用になる場合は、必ず専用のシールド、ピンをご使用ください。また、それ以外のシールドを加工したり、純正部品以外のピンを取り付けたりしないでください。
- チンベンチレーションを閉じたままの状態や、ウィンドシャッターなどを使用すると、Pinlock® Original Insert Lensを使用しても曇る場合がありますので、十分にご注意ください。
- 曇り止め効果が低下したり、Pinlock® Original Insert Lensに傷などが付いた場合は、そのまま使用せずに新しいPinlock® Original Insert Lensに交換してください
- ライディングポジションによりシリコンシールが視界に入ることがあります。

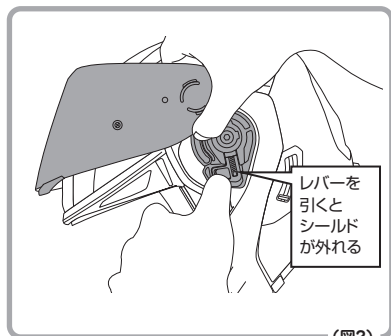
⑥ シールドの脱着方法

【シールドの取り外しかた】 ※この説明はかぶったときの左側より取り外します。



(図1)

①シールドを全開状態にします。



(図2)

②シールドラチェットのレバーを下に引いたまま、図のようにシールドを持ち上げるとシールドが外れます。

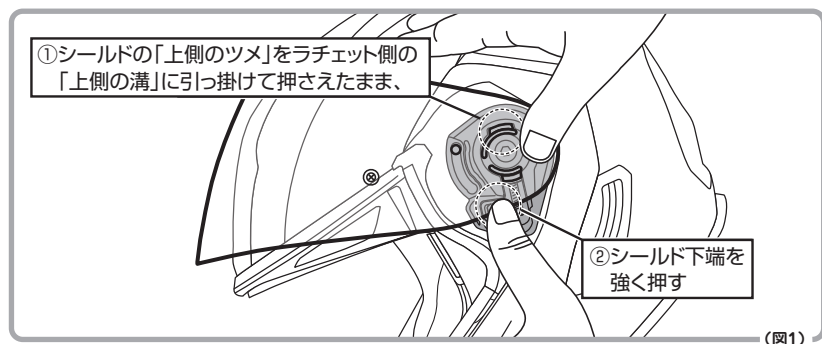
③この作業を反対側も同じように行くと、シールドが完全に取り外せます。

！ ご注意

- 取り外す際はシールドを無理に引き抜いたり、ねじったりしないでください。シールドやラチェット機構が破損するおそれがあります。
- 取り外したシールドは、キズが付かないよう、お取り扱いには十分ご注意ください。

Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（外装系）

【シールドの取り付けかた】 ※この説明はかぶったときの左側より取り付けます。



①シールドの「上側のツメ」をシールドラチェットにある「上側の溝」に引っ掛けただままシールドの図の部分**を強く押す**とシールドが取り付けられます。

②この作業を反対側も同じように行います。取り付けが終わったら3～4回程度開閉動作の確認を行い、動作に異常がなければ取付完了です。

！ ご注意

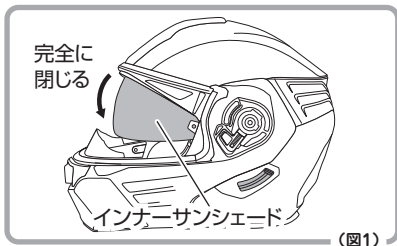
- 取り付ける際はシールドを無理に差し込んだり、ねじったりしないでください。シールドやラチェット機構が破損するおそれがあります。
- シールドの取り付けが完了したら、必ず一度シールドを抜く方向に軽く引っ張り、抜けないことを確認してください。またシールドを3～4回開閉し、正確に開閉動作が出来るかも確認を行い、異音がしたり、開閉動作がうまく出来ない場合は、当項目を再度よくご覧になり、最初から取り付け直してください。

！ 警告

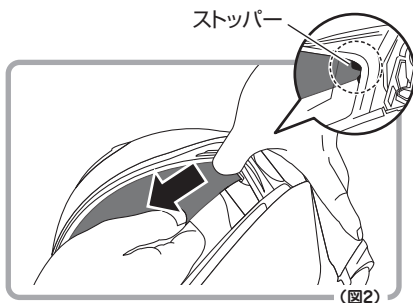
- シールドの取り付け後は、シールドが確実に取り付けられているか、また開閉動作が正しく出来ているかの確認をしっかりと行ってから走行してください。開閉動作が不完全な場合や取り付けが不完全ですと、万一、走行中にシールドがうまく作動しなかったり、脱落する可能性があり、大変危険です。なお開閉動作時に異音がしたり、開閉動作がうまく出来ない場合は、当項目を再度よくご覧になり、最初から取り付け直してください。
- シールドは消耗品です。虫や飛び石などでシールド表面がキズ付くと、視界を妨げる原因となり、大変危険です。キズや汚れが著しい場合は、そのまま使用を続けずに、早めに新しいシールドに交換してください。

7 インナーサンシェードの脱着方法

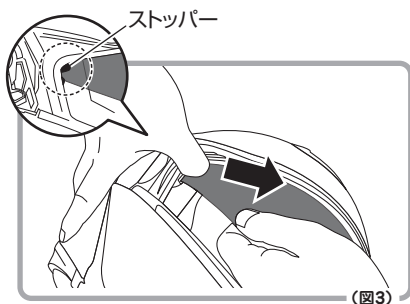
【インナーサンシェードの取り外しかた】



- ① インナーサンシェードを完全に閉じた状態にします。



- ② インナーサンシェード取り付け部にあるストッパーを持ち上げながらインナーサンシェードを手前にひっぱると、インナーサンシェードの片側が外れます。



- ③ 反対側も同じように引き抜くとインナーサンシェードが完全に取り外せます。

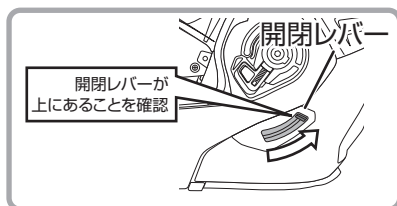
❗ ご注意

インナーサンシェードの脱着は必ず当説明書の手順で行ってください。
無理に引っ掛けたり違う手順で取り外したりすると、インナーサンシェードやその他の部品が破損するおそれがあります。

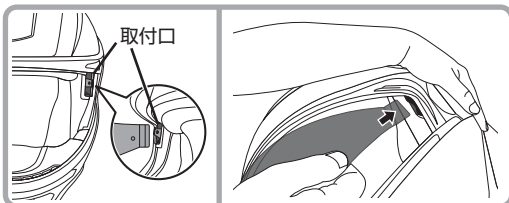
Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（外装系）

[インナーサンシェードの取り付けかた]

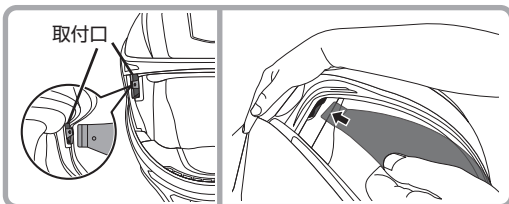
- ①インナーサンシェードの開閉レバーが上になっている（インナーサンシェードが全閉）状態になっているか確認します。



- ②インナーサンシェードの端をヘルメット側にある取付口に「コツン」と手応えがあるまで差し込みます。

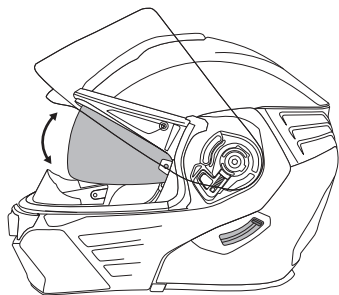


- ③反対側も同じように取付口にインナーサンシェードの端を差し込んだら取付完了です。



❗ご注意

インナーサンシェード取付が完了したら、インナーサンシェードを3～4回開閉し、正しく開閉動作が出来るか確認を行ってください。その際、異音がある場合や開閉動作がうまくできない場合などは、当項目を再度よくご覧になり、最初から取り付け直してください。



8 シールドラチェットの脱着方法

「シールドラチェット」とは、シールドの開閉や脱着機能をコントロールする部分です。

「6 シールドの脱着方法」でシールドを完全に取り外すとシールドラチェットが現れます。

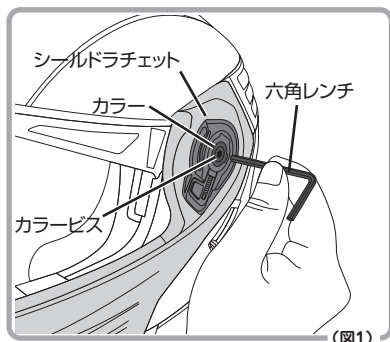
【シールドラチェットの取り外しかた】

※この説明はかぶったときの左側より取り外します。

①シールドを取り外します

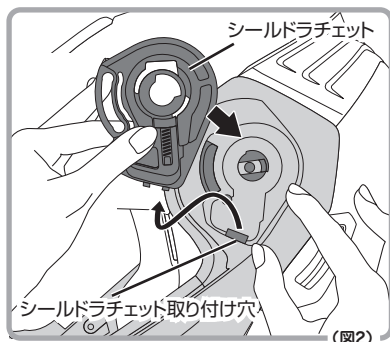
(6 シールドの脱着方法をご覧ください)。

②シールドラチェットを取り付けているカラービスを六角レンチ(4mm)で左(反時計方向)に回すと、カラービスとカラーが取り外せます。(図1)



③シールドラチェットの下側にあるツメをヘルメット側「シールドラチェット取り付け穴」より取り外します。(図2)

④この作業を反対側も行います。



❗ ご注意

カラービスを取り外す際は、ビスに対して正しくサイズが合った工具を選び、ビスに対して工具が垂直になるように回してください。サイズが合っていないか、斜めに回したりすると、ビスのネジ山が潰れてしまうおそれがありますのでご注意ください。また取り外したビスは紛失しないようご注意ください。

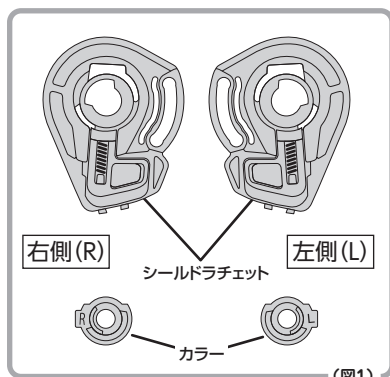
Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（外装系）

【シールドラチェットの取り付けかた】 ※この説明はかぶったときの左側より取り付けます。

- ①シールドラチェットとカラーの方向を確認します。（図1）

※カラーには右=R、左=Lの刻印があります。

- ②シールドラチェット(L)のツメをヘルメット左側のシールドラチェット取り付け穴に差し込み、カラー(L)を取り付けます。
- ③カラービスを六角レンチ(4mm)で右（時計方向）に回してシールドラチェットを取り付けます。
- この作業を反対側も行います。

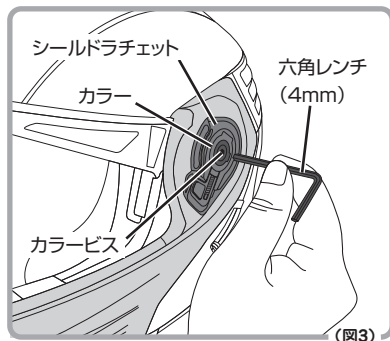
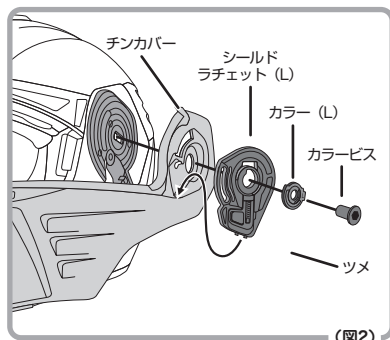


❗ご 注 意

- カラービスを締める際は、必要以上に締め付けないでください。ビスやその他部品が破損するおそれがあります。
- カラービスを締める際は、ビスに対して工具を垂直にして回すようにしてください。ビスのネジ山が潰れてしまうおそれがあります。

⚠警 告

- シールドラチェットは、シールドの開閉動作に重要なパーツです。取り付けは確実に行い、取り付けが終わったら、シールドが正しく完全に下まで閉まるか、また開閉動作は正しく行えるかなどの確認を必ず行ってください。
- カラービスは、定期的に緩みをチェックし、増し締めを行ってください。緩んだまま走行すると、走行中にシールドが脱落するおそれがあり、大変危険です。

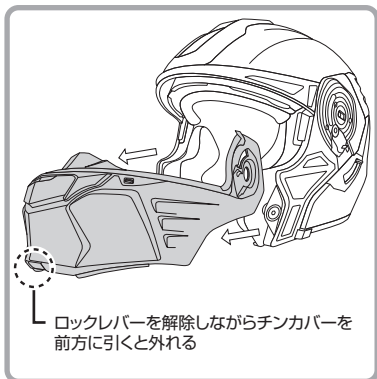


9 チンカバーの脱着方法

チンカバーをメンテナンスする場合は、チンカバーを取り外すことができます。

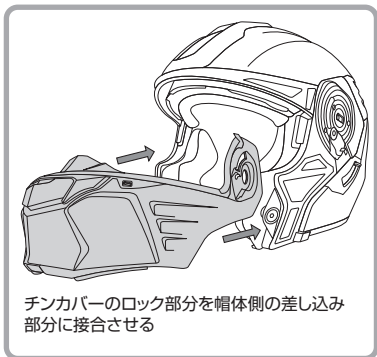
ーチンカバーの取り外しかたー

- ①シールドを取り外します。
(シールドの取り外しは「**6**シールドの脱着方法」をご覧ください)
- ②シールドラチェットとカラーを取り外します。
(シールドラチェットの取り外しは、「**8**シールドラチェットの脱着方法」をご覧ください)
- ③ヘルメットを安定したところに置いてから、チンカバーの「ロックレバー」を解除しながらチンカバーを前方に引くとチンカバーが完全に取り外せます。



ーチンカバーの取り付けかたー

- ①チンカバーの取付部をヘルメットのチンカバー取付口に差し込むと、チンカバーがロックされます。
- ②取り外した逆の手順で、左右のシールドラチェット、カラーを取付ビスで取り付けてからシールドを装着します。
(シールドラチェット、カラーの取り付けは「**8**シールドラチェットの脱着方法」を、シールドの取付は「**6**シールドの脱着方法」をご覧ください)



- ③3～4回開閉動作の確認を行い、動作に異常がなければ取付完了です。

⚠ 警告

- チンカバーを取り付けた後は、走行前に必ずチンカバーの開閉動作が正常に行われるか確認したうえでご使用ください。取り付けが不完全ですと、走行中に脱落するおそれがあり重大な事故等の原因となります。
- チンカバーを取り付けている「カラービス」は定期的に増締めを行ってください。走行時の振動などにより緩んでいる場合があり、そのまま使用を続けると走行中に脱落し、重大な事故につながるおそれがあり大変危険です。

Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（内装系）

10 あごひもカバーの脱着方法

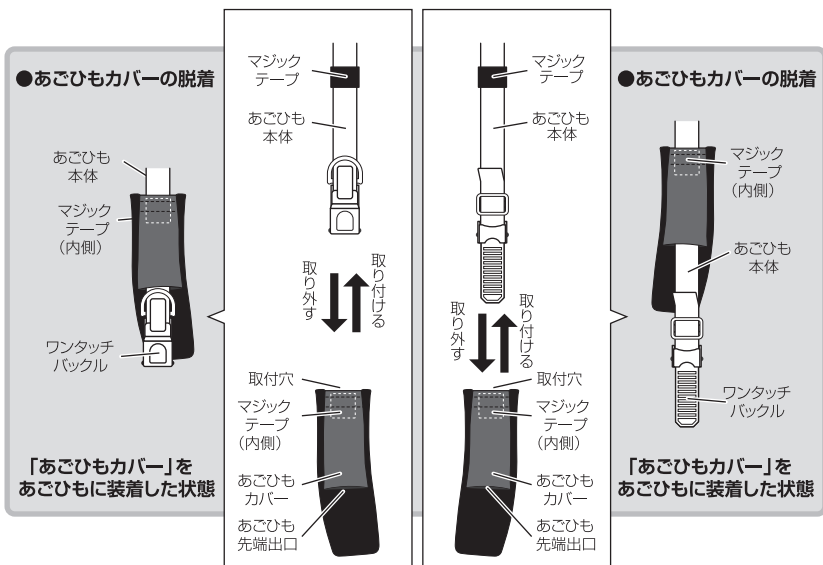
このヘルメットは、汚れた時などにあごひもカバーを取り外して洗うことが可能です。

【あごひもカバーの取り外し方】

- ① あごひもの根元にあるマジックテープより「あごひもカバー」のマジックテープを取り外します。
- ② 「あごひもカバー」をあごひも本体より引き抜き、取り外したら完了です。

【あごひもカバーの取り付け方】

- ① 取り外した逆の手順（あごひもカバーの表裏に注意）で、あごひもカバーの上方より、あごひもを通し、あごひもカバーの穴よりあごひもの先端を出します。
※あごひもカバーは、左右共通部品です。
- ② 最後にあごひもに付いているマジックテープへしっかりあごひもカバーを押し付けてとめれば完了です。

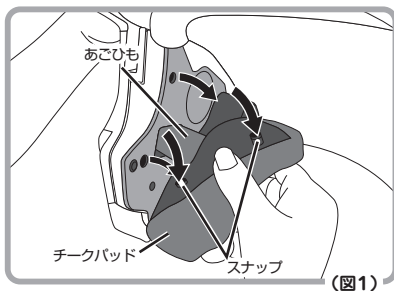


❗ ご注意

あごひもカバーを取り付ける際は、あごひもカバーの表(レザー部分)・裏(あごに当る生地部分)の方向にご注意ください。

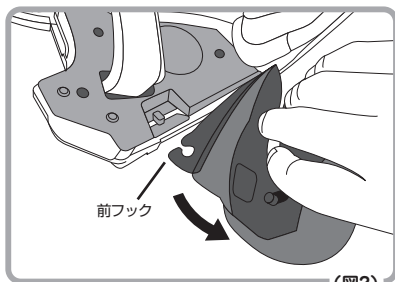
11 チークパッド(ほほ)の脱着方法

ーチークパッドの取り外しかたー



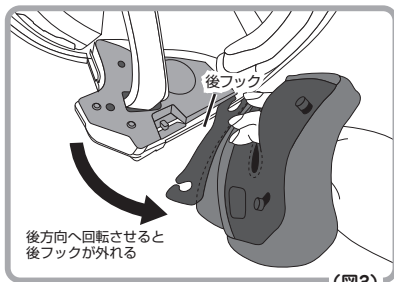
(図1)

- ①チークパッド裏側にあるスナップ3カ所を外し、あごひもを引き抜きます。



(図2)

- ②チークパッドの前フックを引き抜きます。



(図3)

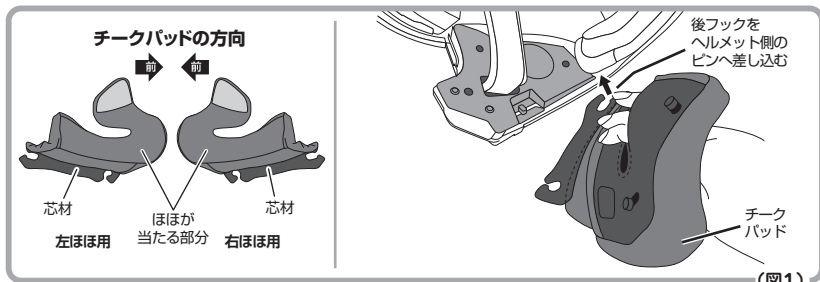
- ③チークパッドを少し後ろ方向へ回転させると後フックが外れ、チークパッドが取り外せます。

！ご 注 意

スナップを取り外す際は、スナップの根元をしっかり持って外してください。
無理に引っばるとスナップやチークパッドが破損するおそれがあります。

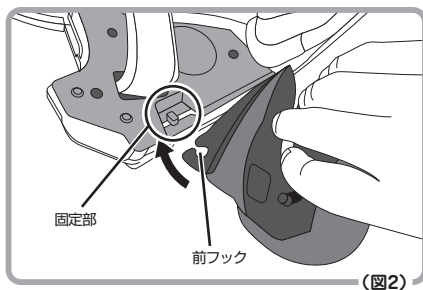
Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（内装系）

ーチークパッドの取り付けかたー

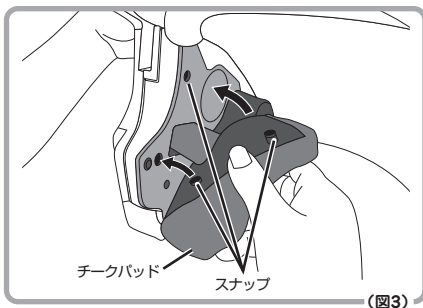


- ①チークパッドの方向を確認し、後フックをヘルメット側のピンに差し込みます。(図1)

- ②チークパッドの前フックをヘルメット側にある固定部へ手応えがあるまで差し込みます。(図2)



- ③チークパッドにあごひもを通し、スナップ3カ所を留めます。この作業を反対側も同じように取り付けます。(図3)



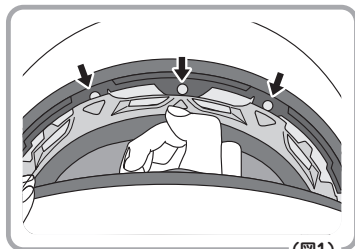
※取り付けが終わったら、あごひもカバーのたるみやシワをしっかり伸ばしてください。

❗ご 注 意

チークパッドが完全に取り付けられていることを確認してから走行してください。
また正しい取り付けが出来ていない状態や、チークパッドを取り付けていない状態での走行は危険ですのでおやめください。

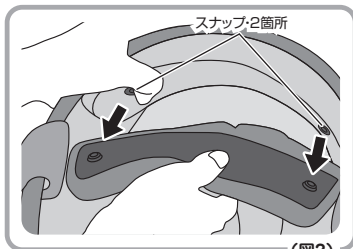
12 インナーパッドの脱着方法

—インナーパッドの取り外しかた—



(図1)

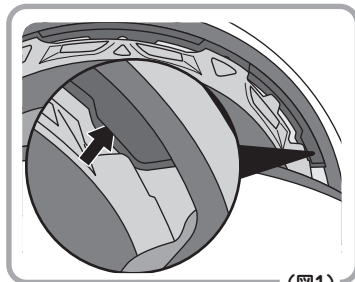
- ① 額付近のスナップを下方方向に引っ張って外します。



(図2)

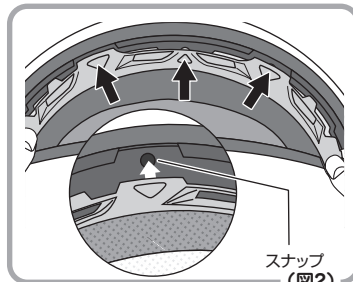
- ② 後頭部にある、2箇所のスナップを外せば、インナーパッドを全て取り外せます。

—インナーパッドの取り付けかた—



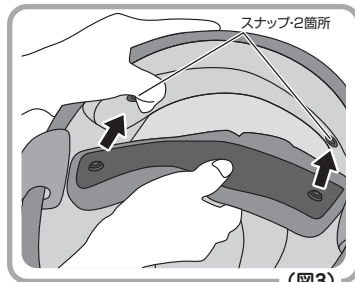
(図1)

- ① こめかみ部分の芯材をはじめに差し込みます。



(図2)

- ② 本体にある、3箇所のスナップをそれぞれ押し込みます。



(図3)

- ③ 後頭部にある、2箇所のスナップをそれぞれ取り付けて完了です。

❗ ご注意

- インナーパッドを取り外す際、スナップは強引に引っ張らず、ゆっくり引き抜いてください。パッドの生地やその他部品が傷むおそれがあります。
- インナーパッドが確実に取り付けられていないと、走行中にヘルメットがずれる可能性があり、大変危険です。ジョイントおよびスナップは確実に取り付けてください。

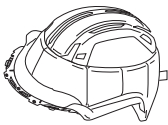
Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（内装系）

参考 インナーパッド、チークパッド、あごひもカバーの互換性について

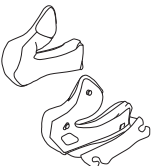
KAZAMIシリーズの内装は以下の区分で互換性があり、

チークパッドだけを小さめにするといった、細やかなサイズ調整が可能です。

■ KAZAMIシリーズ インナーパッド: 各 ¥3,500 (+消費税)

	帽体サイズ	パッドサイズ(厚み)	互換性	パッケージ内容
	M帽体	21mm ※オプションのみ S (18mm) M (12mm)	この3種類で互換性があります。	インナーパッド×1個入
L帽体		L (18mm) XL (12mm) 9mm ※オプションのみ	この3種類で互換性があります。	インナーパッド×1個入

■ KAZAMIシリーズ チークパッド: 各 ¥3,000 (+消費税)

	帽体サイズ	パッドサイズ(厚み)	互換性	パッケージ内容
	M帽体	55mm ※オプションのみ S (50mm) M (35mm)	全サイズで互換性があります。	チークパッド(左右)×1セット
L帽体		L (45mm) XL (40mm) 30mm ※オプションのみ		

■ KAZAMIシリーズ あごひもカバー: 各 ¥1,000 (+消費税)

	互換性	パッケージ内容	※掲載されている価格は、2016年2月時点の価格です。 ※掲載されている価格は、すべて「税抜き価格」となっています。 ※最新情報は、弊社ホームページをご確認ください。
	全サイズ共通 全サイズで互換性があります。	あごひもカバー(左右)×1個入	

重要 内装パッド(インナー・チーク・あごひもカバー)の洗濯についてのご注意

- 当製品の内装パッドは、取り外したあとに洗えます。洗う際は一般に市販されている家庭用洗濯洗剤を使用し、手洗いもしくは洗濯機(必ず洗濯ネットに入れる事)で、洗ってください。
- 洗濯時は、市販の洗濯用洗剤を水もしくはぬるま湯でご使用いただき、熱湯や化学洗剤、有機溶剤などでのクリーニングは、品質の低下や傷みの原因となりますので、絶対に使用しないでください。
- 市販の洗濯用洗剤でも、種類によっては多少の色落ちが発生する可能性がありますので、洗濯の際はなるべく個別に分けて洗ってください。
- 50℃以上となる、乾燥機能付き・ランドリーなどでの洗濯は、パッドの品質低下や傷みの原因となりますので、それらの機器の使用をさけてください。
- 洗濯後はしっかり水気をきり、なるべく直射日光の当たらない場所で陰干しを行い、十分乾燥したことを確認してからヘルメット本体へ装着してください。
- 内装パッドは消耗品です。通常の使用でも使用頻度によっては、生地傷みや内部フォームの劣化が進みますので、適時交換をお勧めします。

13 ウィンドシャッターの脱着方法

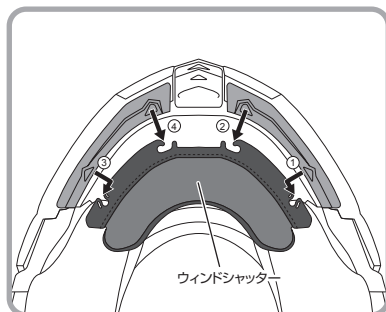
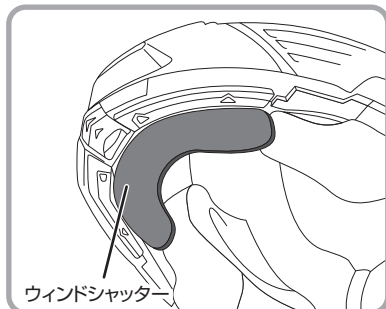
このヘルメットには、標準付属品として「ウィンドシャッター」が標準装着されています。このパーツは、走行中に発生するあご付近からの風の巻き込みを軽減するもので、季節や用途に応じてお好みで着脱できます。

ーウィンドシャッターの取り外しかたー

ウィンドシャッター全体の芯材付近を持ち、右図の①～④の順番で矢印方向に押すとフックが外れてウィンドシャッターが取り外せます。

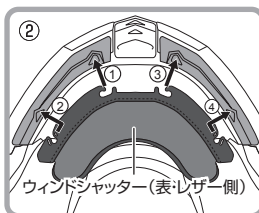
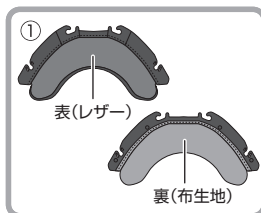
❗ご 注 意

ウィンドシャッターを取り外す際は、必ず芯材全体付近を持ってゆっくり行ってください。無理に引っばると芯材が破損したり生地部分が破れる場合があります。



●ウィンドシャッターの取り付けかた

- ①まず(図①)をご覧ください。「表」と「裏」をお間違えないよう、ご確認ください。
- ②次に(図②)のように、△マークを目安に、ウィンドシャッターのフックを手応えがあるまで差し込みます。



❗ご 注 意

- 取り付けは確実に行ってください。
取り付けが不完全ですと、走行中に脱落するおそれがあります。

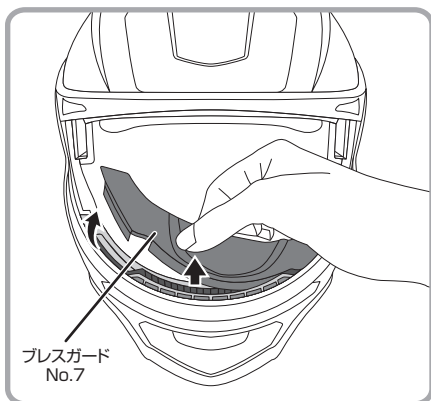
Ⅲ. 各機能のメンテナンスについて（内装系）

14 ブレスガードNo.7の脱着方法

ブレスガードNo.7は用途に応じてお好みで脱着できます。

ーブレスガードNo.7の取り外しかたー

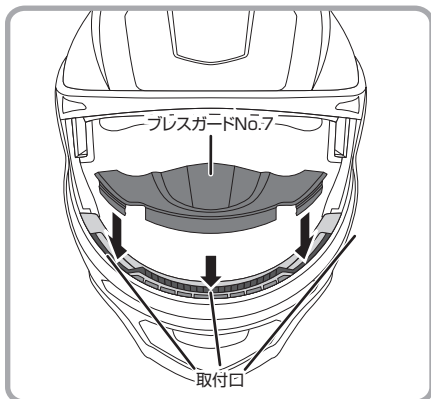
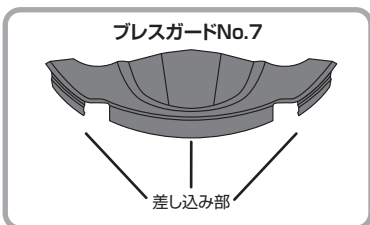
ブレスガードNo.7をしっかりと持ち、上方向へ引き抜くと取り外せます。



ーブレスガードNo.7の

取り付けかたー

ブレスガードの下部にある、3カ所の差し込み部をヘルメット側にあるブレスガード取付口にそれぞれしっかり差し込みます。



！ご 注 意

取り付けの際、接着剤などは使用せず、必ず上記の方法での取り付けのみ行ってください。接着剤などの成分により、ヘルメットの材質が侵されるおそれがあります。

商品に関するお問い合わせと修理のご依頼方法:

修理のご依頼方法

■修理のご依頼は、お買い上げの販売店もしくは、弊社までお問い合わせください。

■修理で依頼品をお送りいただく前に、必ず下記までご連絡、もしくはお問い合わせください。事前にご連絡をいただけない場合、スムーズな修理対応ができない場合がございます。

※修理品到着後、弊社にて「ヘルメット本体の安全性能を確保しかねる」と判断した場合は、修理をお断りする場合がございますので、予めご了承ください。

修理できないパーツ

■下記パーツおよび部位は、ヘルメットの性能を保持するため、修理できません。

○帽体(シェル) ○衝撃吸収ライナー(本体) ○あごひも(バックル含む)

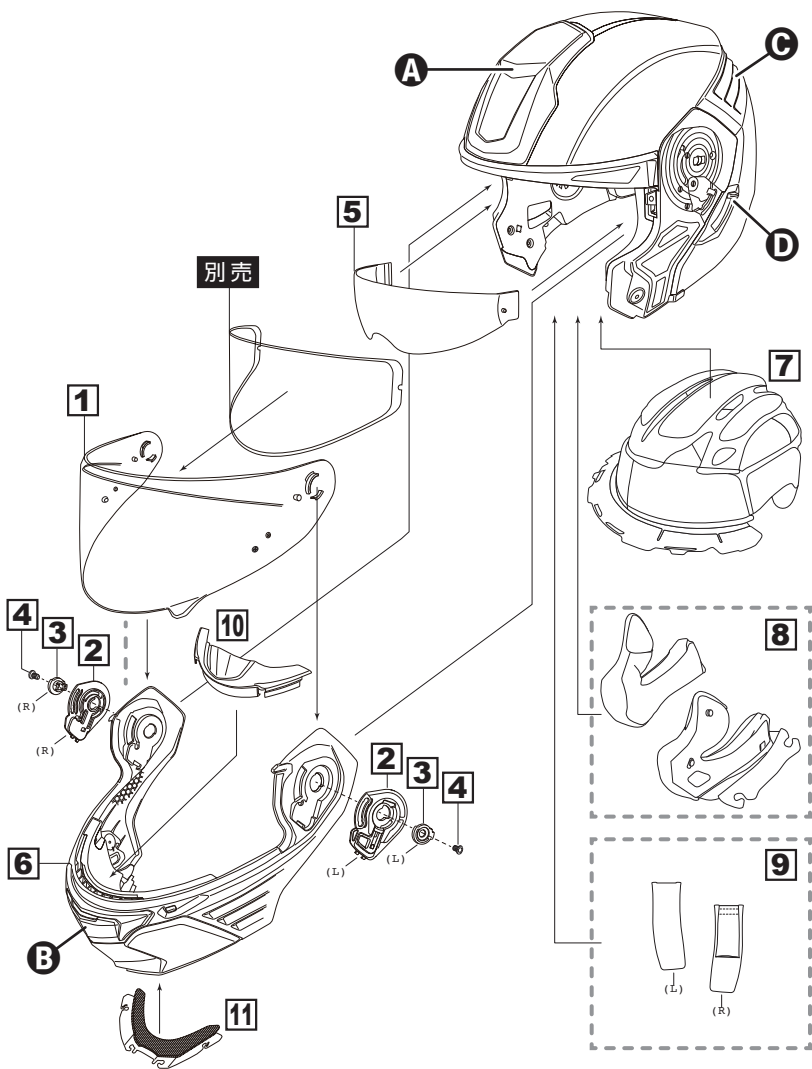
※その他、修理の詳細につきましては、弊社までお問い合わせください。

株式会社 オージーケーカブト

TEL: 06-6747-8031

〒577-0016 大阪府東大阪市長田西6丁目3-4

●KAZAMIシリーズ 補修パーツリストと修理対応表



KAZAMI シリーズ・補修パーツ／価格表

No.	パーツ名称	パッケージ内容	価格(税抜)
1	CM-2-P シールド	CM-2-Pシールド(標準:クリア)×1枚	¥4,500
2	CM-2 シールドラチェットセット	CM-2シールドラチェット(L/R)×1セット	¥1,000
3	CM-2 カラーセット	CM-2カラー(L/R)×1セット	¥200
4	CM-2 カラービスセット	CM-2カラービス(6×14)×2本	¥200
5	CM-2インナーサンシェード	CM-2インナーサンシェード(標準:スモーク)×1枚	¥2,500
6	KAZAMI チンカパー	KAZAMI チンカパー×1個	¥4,000
7	KAZAMI インナーパッド	※25ページ参照(S, M, L, XL) インナーパッド×1個	¥3,500
8	KAZAMI チークパッドセット	※25ページ参照(S, M, L, XL) チークパッド(L/R)×1セット	¥3,000
9	KAZAMI あごひもカバーセット	KAZAMI あごひもカバー(L/R)×1セット	¥1,000
10	プレスガードNo.7	プレスガードNo.7×1個	¥1,200
11	KAZAMI ウインドシャッター	KAZAMI ウインドシャッター×1個	¥1,000

別売	CM-2-P Pinlock® Original Insert Lens (1枚入)	¥3,000
-----------	--	--------

※上記パーツは、Kabutoヘルメット取扱店にてお問い合わせください。

※パーツにカラーが設定されているものについては、お買い上げの販売店へご注文の際に、カラーをお伝えください。

※製品の性能をさらに向上させるために、材質や仕様、価格等を予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。

※パーツの詳細は、Kabutoホームページでもご覧になれます。

www.ogkkabuto.co.jp

KAZAMIシリーズ・修理対応パーツ／価格表

※当社製造不良等の原因以外による破損等につきましては、下記の通り有償修理となりますので、予めご了承ください。

	パーツ名称・修理内容	カラー／部位	価格(税抜)	備 考
A	ヘッドベンチレーション	各色	¥1,500	パーツのみ販売可能
B	チンベンチレーション	各色	¥1,200	
C	リアベンチレーション	各色	¥3,000	修理対応のみ
D	インナーサンシェード・開閉レバー	全色共通	¥1,500	

■ 修理のご依頼についての詳細は、28ページをご覧ください。

※掲載されている価格は、2016年2月時点の価格です。

※掲載されている価格は、すべて「税抜き価格」となっています。

！ご 注 意

下記パーツおよび部位は、ヘルメットの性能を保持するため、修理ができません。

・帽体(シェル) ・衝撃吸収ライナー ・あごひも(バックル含む)

※修理の詳細につきましては、弊社までお問い合わせください。



株式会社 オージーケーカブト
〒577-0016 大阪府東大阪市長田西6丁目3-4 TEL:06-6747-8031

ホームページ: